

植物多様性センターの「カンアオイ」

カンアオイの仲間は雑木林の林床などに自生する常緑の多年草です。関東地方でもっともふつうに見られるのがカンアオイ(別名:カントウカンアオイ)です。冬から早春にかけて花が地面すれすれで咲くため、ポリネーターがいったい何者なのか古くより多くの憶測を呼んできました。(別種のタマノカンアオイではキノコバエの報告があるようです。)花は3数性で、古い被子植物特有の構造を有しており、観察し甲斐のある魅力的な植物です。



カンアオイの葉: 鮮やかな緑色で肉厚、ハート型をしている



カンアオイのつぼみ: ドングリにそっくり(中央は本物のドングリ)



開花の状況: 萼片の下部は合着し、内部には格子状隆起が見える



種子の成熟しはじめ: 緑色を帯び、萼筒がふくらんでくる